

学校保健にかかわる現状と課題

部長 鈴木多恵子

1 学校保健の動向

多くの支部が、『児童生徒の「生きる力」を育む学校保健活動の充実』をメインテーマに掲げ、研修に取り組んでいる。外部講師を招いての支部全体での研修により、喫緊の学校保健の課題を理解し、課題別、地区ごと、中学校区ごとに分かれてのグループ研修では、児童や生徒の実態により直結する充実した研修がなされている。

研修内容で多く見られたのは、「養護教諭の指導や支援のあり方」「生活習慣の改善」「小・中、関係機関との連携の強化」である。

(1) 生活習慣の改善

五泉市、東蒲原郡、見附市では、メディアの使用時間と睡眠・学習時間などの生活習慣と関連づけて生活習慣改善に向けて児童・生徒への意識づけがなされている。燕市・西蒲原郡では、生活行動と病気の関係性に着目させることから病気予防へと導く研究授業が行われた。新潟市では、「発達段階に応じた生活習慣の確立」を目指して、アクティブラーニングを意識した授業を一人一実践行っている。

(2) 小・中、関係機関との連携

佐渡市、三条市では、関係機関との連携強化を図るため、施設見学や職員との意見交流を行っている。柏崎市・刈羽郡では、柏崎市立教育センターと共催で講演会や授業づくりの研修を行っている。妙高市では、よりよい生活習慣を上げるために、市全体で食育推進を行い「弁当の日」を実施したり、「健康カルテ」による肥満予防の個別指導や小・中を通して継続支援を行ったりしている。糸魚川市、魚沼市、十日町市・中魚沼郡、長岡市・三島郡では、小・中連携に養護教諭のコーディネーションを位置づけ、中学校区の健康課題の解決に向けて組織的に活動している。

(3) 養護教諭の支援や指導のあり方

上越市では、保健管理に焦点づけて児童生徒の生きる力を育むための支援や指導について実践を深め、養護教諭が「子どもを育てる」という視点をもつことの重要性を再確認した。村上市では心理療法、胎内市では健康相談に関する研修会を行い、資質向上に努めている。小千谷市では性教育の実践発表、南魚沼郡では、小・中9年間の性教育教材の作成が行われ、養護教諭の専門性を生かした支援のあり方について研修を深めている。

2 今後の課題

(1) 保護者への啓発活動と連携強化

喫緊の課題であるメディア使用時間と睡眠・学習時間との関係性については、家庭生活との関連が深い。保護者のメディアの長時間使用の弊害に関する理解を図り、個々の児童生徒への指導や支援をどのように図っていくのか、大きな課題である。

(2) 関係機関、校種間連携の強化

健康課題の解決に向けては、地域ぐるみで取り組む必要がある。様々な支援が必要とされるケースについては、関係機関との連携が不可欠である。的確な判断と柔軟な対応が求められる。

(3) 養護教諭としてのより高い専門性の習得

保健管理の取組を充実させるとともに、様々な課題を抱えた児童生徒に対応するためのコミュニケーション能力、パソコンによるデジタルデータ活用力、保健指導でのアクティブラーニング等、より高度の専門性が求められている。